

## A—1 学校研究

### 1. 学校研究

#### (1) 研究主題

# 一人一人が輝き、学び合う子をめざして ——かかわり合い、つながり合って、追求する——

#### (2) 主題設定の理由

##### ① 昨年までの研究成果を生かして

平成 13 年度より、「一人一人が輝き、共に生きる子」を研究主題として人権教育に取り組んだり、その育ちを授業の中に生かし、より主体的な学習の中でそれぞれのよさを発揮しながらお互いに認め合い、より高め合うための関わりのある授業づくりに取り組んできた。

本校では、学力の核を「学び合う力」として捉え、個を見つめ、個を生かし、学習集団として共に学ぼうとする児童の姿を求めながら、授業づくりに取り組み、平成 17 年度「評価を生かした学力向上推進事業」の公開発表も開催してきた。

今年度は、これまでの研究の成果や課題を生かし、「話す」「聴く」「考える」のバランスをうまく取り、「つながり合う」に重きを置いて、新たな課題を追求しつつ、算数はもとより、算数以外の教科でもさらに研究の内容を高め、より一層個を見つめ、個を生かす研究を深めていきたいと考えた。

##### ② 今日的な課題を受けて

#### ア 子ども主体の授業づくりを大切に

昨年度までの研究をふり返り、また子どもの実態を見つめ直す中で、「めざす学び合う姿にせまるために」教師と児童、児童同士のかかわり合いやつながり合いをもっと意識した学び合いや学び方を今年度も追求していく必要がある。そして、児童の考える力をさらに高め、教材の本質に迫るような課題や発問を定着させていかなければならない。そこで、今年度は、『かかわり合う・つながり合う』に『追求する』をサブテーマの新たなキーワードとして付け加え、子ども達が課題や活動に対して、ねばり強く、根気強く、聴いて考えて行動し、やり遂げていく姿も求めて研究を進めていくこととした。

#### イ 評価と支援の一体化を求めて

学習したことに対してのある時点での達成状況を捉えて判定するだけでなく、それを個に応じた学習の改善・進歩・深まりにつながるよう支援できる本校の『評価』に対するとらえを共通理解し、その効果を確認できる一連の営みを今年度も大切にしていきたい。そのためにも、児童の自己評価や相互評価、そして教師による評価の記録の集積が、これまで以上に大切になってくる。定着してきたノートづくりや工夫してきた振り返りカード（児童用・教師用）の積み上げや学習のねらい・課題・評価が一体化した授業の在り方をさらに追究していきたい。また、教師は、授業中に一人一人の考えをつかみ、その考えを集団思考の中でどう生かすかを瞬時に組み立てる力をつけていかなければならない。子どもの発言や考え、思いを適切に把握する力、子どもどうしのつながりをさらに広め、つな

げていけるようコーディネートしていく力、つまり、教師の「授業力」をまだまだ高めていかなければならない。そして、これらを研究していくことが、児童にとって、わかる授業につながり、学びの意欲をさらに育んでいけるものと考えている。

### (3) 研究の重点

#### ① 子ども主体の授業づくり

くめざす学び合う姿に迫るために>

- ア 考えをもつ・話す・きく・かかわり合うためにつけたい力の具体化
  - ・ 発表の方法や学習ルールのパターン化，法則化への手だての工夫
  - ・ ノート指導の充実

イ つながり合う仲間になるために具体的な手だて

- ・ 人権教育の視点を大切にし，生徒指導の機能を生かした教科学習
- ・ 仲間意識を育てていくような学級づくり，学習集団づくり

く考える力を伸ばすために>

ア 課題と高め合う発問の工夫

- ・ 教材のもつ本質に迫るねらいと課題の重視
- ・ 課題に対する見通す力の育成
- ・ 高め合う（より難しいものへ，統合的に見るなど）発問の工夫

イ 目的意識や問題意識，課題意識を持たせるような必要感のある授業づくり

ウ 学習形態の工夫(ペア学習や小グループ学習での学び合いの場を設ける)

エ 試行錯誤させる場の設定

オ 本質にせまるための教材・教具の工夫

#### ② 評価と支援の一体化

ア 単元前・授業前の「評価と支援の一体化」

- ・ 事前テスト・基礎学力テストを生かした単元計画の工夫
- ・ 座席表などによる個のとらえを生かした具体的な支援の充実

イ 授業中・授業後の評価方法の工夫。

- ・ 一人一人の児童の考えや変容を捉え，次の支援に生かせる教師評価のあり方の工夫
- ・ 児童の発達段階に応じた自己・相互評価の工夫
- ・ 児童自身が自分の学びをふり返ることができるノート作りの工夫
- ・ ふり返りを定着させ，次の学習へとつなげていくための工夫

### (4) 年間計画

#### ① 事業予定

研究推進委員会で作成された原案を全体会，ブロック研究部会，各学年部会，SUN 部会で協議し，共通理解を図り，授業研究を中心に研究実践を進める。

校外における研究視察や講師を招聘するなどして，研修を深めていく。

| 月     | 内 容                                                                                                                               |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4 月   | 研究体制，組織作り<br>研究の計画立案（推進委員会，ブロック別研究会，S U N 部会 ）<br>全体研究会・ブロック別研究会・S U N 部会 年間計画の決定<br>教育課程の年間計画作成（教科・道徳・特活・総合的な学習）<br>学力テスト（4～6 年） |
| 5 月   | 推進委員会<br>ブロック別研究会 「研究授業の教科単元決定」「少人数指導年間計画の検討」<br>S U N 研究会 「少人数アンケート」「学力テスト結果検討」<br>「学習環境づくり」など<br>全体研究会 授業研究 全体授業                |
| 6 月   | ブロック別研究会，S U N 部会，推進委員会<br>全体研究会（指導主事訪問：A 日程） 全員授業研究 全体授業 6 年 1 組<br>低中高部会 全体研究会（事前研） 推進委員会                                       |
| 7 月   | 推進委員会，全体研究会，S U N 部会<br>ブロック別研究会 授業研究 1 年 2 組 5 年 2 組 4 年 2 組                                                                     |
| 8 月   | ブロック別研究会（一学期の反省とレポート発表会） S U N 部会，推進委員会<br>全体研究会（ブロック別研究会をうけての全体会）<br>講師を招聘しての研修会部<br>P T A 共催『子どもの思いトーク&とく』                      |
| 9 月   | 推進委員会 全体研究会 S U N 部会<br>ブロック別研究会 授業研究                                                                                             |
| 1 0 月 | 全体研究会（指導主事訪問：B 日程）<br>全体授業 4 年 1 組<br>ブロック別研究会 授業研究 ひばり S U N 部会                                                                  |
| 1 1 月 | 推進委員会，<br>ブロック別研究会 授業研究 3 年 1 組 2 年 2 組 5 年 2 組 6 年 2 組<br>全体研究会 「研究の成果と課題」 S U N 部会                                              |
| 1 2 月 | ブロック別研究会 授業研究 わかば 2 年 1 組 3 年 2 組<br>推進委員会 全体研究会 「研究のまとめについて」                                                                     |
| 1 月   | 研究報告書の作成 推進委員会                                                                                                                    |
| 2 月   | 来年度に向けて（推進委員会，全体研究会，ブロック別研究会，S U N 部会）                                                                                            |
| 3 月   | 教育課程年間計画の見直し                                                                                                                      |

## ② 研究授業計画

授業研究を通して，実践の交流，深化を図る。

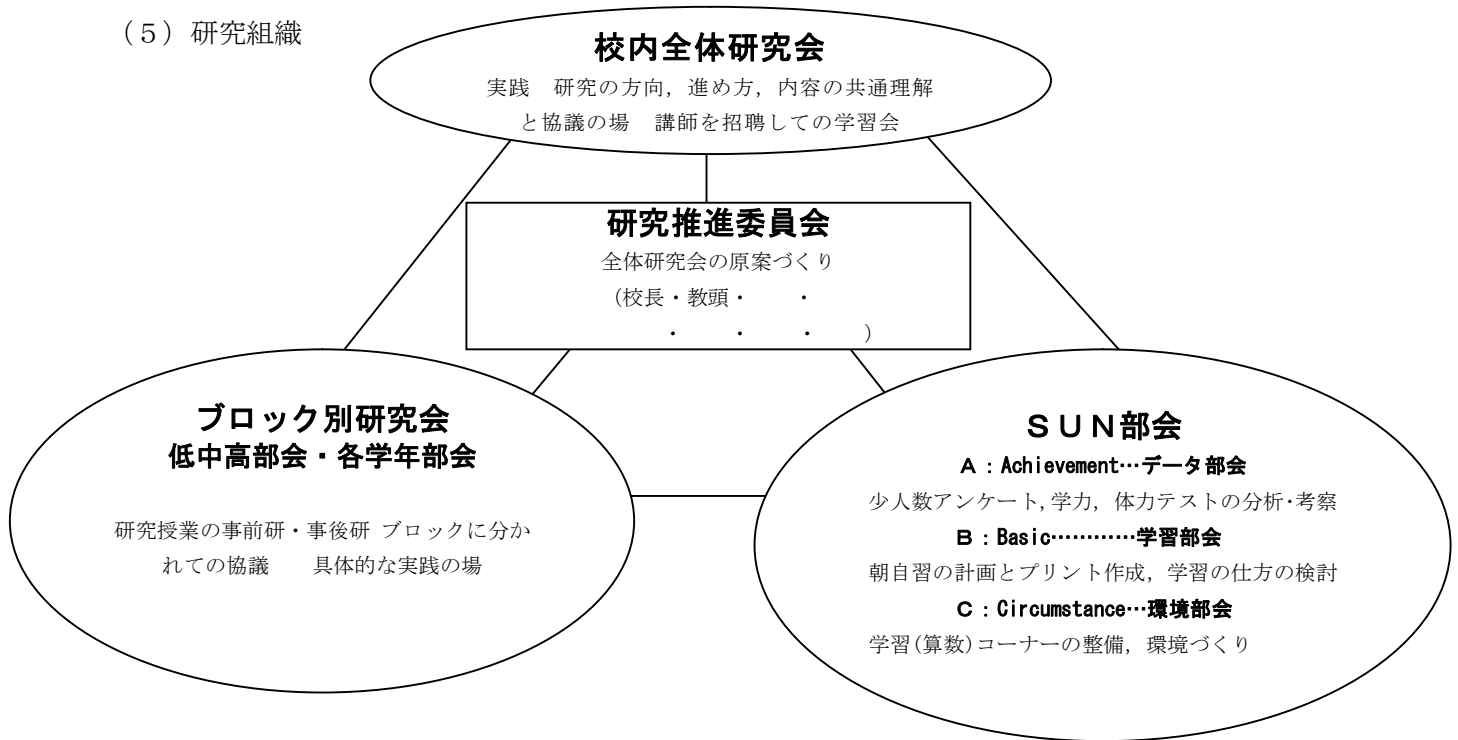
| 授業者       | 5 月 | 6 月  | 7 月  | 9 月  | 1 0 月 | 1 1 月        | 1 2 月       |
|-----------|-----|------|------|------|-------|--------------|-------------|
| 低学年<br>部会 |     |      | 1年2組 | 1年1組 |       | 2年2組         | 2年1組<br>わかば |
| 中学年<br>部会 |     |      | 4年2組 | 年組   | 4年1組  | 3年1組         | 3年2組        |
| 高学年<br>部会 | 年組  | 6年1組 | 5年1組 |      | ひばり   | 5年2組<br>6年2組 |             |

6/27 主事訪問 A

10/10 主事訪問 B

- ・ 全体授業は、1学期に2回、2学期に1回（低・中・高）とし、事前研・事後研も全体で行う。
- ・ わかば・ひばりの授業は、事前研・事後研ともに所属学年部会で行う。

(5) 研究組織



◎：各部会責任者

| SUN部会の所属 | 低学年 | 中学年 | 高学年 |
|----------|-----|-----|-----|
| A：データ部会  |     |     |     |
| B：学習部会   |     |     |     |
| C：環境部会   |     |     |     |